

ヒロシマから愛の伝言

感涙の物語、待望の映画化！
<http://aogiri-movie.net/>



エル・パーク仙台 セミナーホール 2015年7月4日(土)

第1回上映 10:30～ 第2回上映 14:00～

アオギリにたくして



広島平和記念公園の被爆アオギリの木の下で
たくさん子どもたちに
被爆体験を語り継いだ
ひとりの女性のものがたり

入場料（前売り）： 一般成人 1,000 円 小学生～大学生 500 円 （当日券：各 100 円増し）
上映時間 2 時間/企画総括プロデューサー・中村里美氏 & 音楽監督・伊藤茂利氏のスピーチ 20 分/
午後の部は最後に、若者たちによる「歌・アオギリにたくして」合唱があります。

お問合せ先 : 022-222-9714 (仙台 YWCA・月火金 10:00~17:00) 090-5833-3050(佐藤)

Email: ywca@cocoa.ocn.ne.jp

主催：「アオギリにたくして」上映実行委員会

後援：仙台市教育委員会 学校法人宮城学院 河北新報社 TBC 東北放送 仙台 YWCA



出演：風見しんご 斉藤とも子 原日出子（特別出演） 渡辺裕之（友情出演） 菅井玲
塩出純子 牛島摩弓 柏木佑太 はらまいこ 二橋進 甲斐将馬 大橋芳枝
原田康夫（元広島大学学長） 松井一實（広島市長）

企画・製作・統括プロデューサー：中村里美/原作・脚本：監督：中村将斗/プロデューサー・音楽監督：伊藤茂利/助監督：中根克/撮影監督：倉本和人/撮影：佐久間栄一/照明：淡路俊之/録音：山口勉/B班撮影：曾根剛/MA：山下裕康/美術：中根加代佑・与謝蕨風/ヘアメイク：村松直美/スチール：AKIRA・竹本宗文・佐倉和樹/題字・イラスト・フライヤーデザイン：吉田しんこ ■2013年ヴィスタサイズ ステレオ ©2013株式会社ミューズの里
映像デザイン：倉本和人/制作：ミューズの里「アオギリにたくして制作委員会」/主題歌&挿入歌「アオギリにたくして」「ひな鳥へ」：作詞・作曲・歌：中村里美 《後援》広島県/広島市/長崎市/広島市教育委員会/東京広島県人会
広島県医師会/広島県看護協会/広島県歯科医師会/広島県薬剤師会/広島YMCA/広島YWCA 《支援》財団法人広島国際文化財団「ヒロシマピースグラント2012」/お問合せ先：ミューズの里 info@musevoice.com

アオギリにたくして

時を超えて伝えたい愛がある

結婚式まであと三日、私の人生は一変した——

広島で被爆したアオギリの苗を全国各地で植樹し始めた田中節子。世界的に広がりつつあるこの活動に興味を惹かれたライターの片桐千草は、取材中に知り合った節子の妹から彼女の生前の日記を預かる。そこには原爆により足を失った女性の苦しみと克明に綴られていた…。絶望の淵に何度も立たされながら、やがて彼女は平和の語り部として生きていく決意をする。彼女がアオギリにたくした思いとは…。

壮絶な人生を歩んだ女性の、過酷にして清澄な愛の軌跡。



平和の種を人々の心に蒔き続けた実話に基づく感涙の物語

「アオギリにたくして」は、広島平和記念公園にある被爆アオギリの木の下で、たくさんの人々に被爆体験を語り継いできた沼田鈴子さんをモデルにした映画です。

東日本大震災が起きて4ヶ月後の2011年7月12日、被災地の人々や福島原発の事を案じながら沼田鈴子さんは永眠されました。「生きて、伝えなければ…」亡くなる1ヶ月前、沼田さんがおっしゃられた言葉が今も忘れられません。原爆と原発の違いはあっても、放射能の恐ろしさは同じです。私たちは今一度、ヒロシマ・ナガサキの被爆者の声にしっかりと耳を傾け、日本と世界、そして地球の未来を考えていく時を迎えています。「世界中の誰にも二度と同じ苦しみをさせたくない」と願う被爆者の方々の願いを、日本、そして世界の人々と共に叶えていく映画となることを願っています。この映画を観てくださった方々の心に、被爆アオギリにたくされた思いを届け、平和の種が蒔かれていくことを祈っています。

No more Hiroshima! No more Nagasaki! No more Fukushima!

総括プロデューサー：中村里美

「アオギリにたくして」仙台上映に向けて

この映画のモデルになられた沼田鈴子さんは原爆によって右足を失い、それにより生きることに絶望していました。しかし、被爆したアオギリの木に新芽が出ているのを知って生きる希望を見出した彼女は、その後、被爆体験を伝える語り部として、アオギリの木の下で精力的に活動するようになりました。

現在では、沼田さんのように実際に戦争を体験し伝えてくれる人が減少しています。いずれは、単に歴史上の出来事として捉えられ、強い意志を持って伝え継ぐことをしなければ、風化していくことでしょう。

被爆アオギリの苗は広島記憶として全国各地に植樹され、実は私の通う学校のキャンパスにも6年前に植えられていたのですが、その事実を知ったのはこの映画に出会ってからでした。毎年夏休みに実施される日本YWCA主催の「広島を考える旅」には、高校や大学の有志が参加し、原爆についての学習が続けられているにも関わらず、やはり語り継ぐというのは非常に難しいことだったのです。

戦争によって多くの人々の命が失われたこと、また戦後も辛く苦しい経験をされている方々がいたこと、絶望から立ち直りその記憶を伝え続けてきた人々の存在を、この作品を通して多くの方々に改めて知っていただきたいと思っております。そして、二度とこのような過ちを繰り返さないために、後世に語り継がれることを切に願っています。

仙台上映実行委員長 白川冴恵香（宮城学院女子大学三年）